

# 津波災害に備えるために

作成:滑川市防災危機管理課

(TEL 076-475-0573)

地震や津波はいつ発生するか、わかりません。

自分の命を守るために、日頃から備えておくことが大切です。

## #災害リスクの把握(自助)

- ○自宅や学校、勤務先など普段生活している場所が<u>「津波浸水想定区域に該当するかどうか」</u>を まずは<u>津波ハザードマップで確認</u>しましょう。
- ○避難行動の注意点や情報収集の方法を防災パンフレットで確認しましょう。

## #避難場所や避難行動の検討(自助)

- ○地震による津波災害を想定し、あらかじめ<u>「どこへ」「どのように」</u> 避難するのかを、家族や近隣の方と話し合って決めておきましょう。
- ○自動車での避難は様々なリスクを伴うため、やむを得ない場合を除き、<u>徒歩で避難</u>しましょう。 平時から、浸水の恐れのない安全な場所を一時避難場所と想定し、徒歩避難してみましょう。 ※一時避難場所は、災害から命を守るために一時的に避難するための場所です。
- ○地震が発生し津波災害が想定される場合は、ただちに次のいずれかの避難行動を取りましょう。
- ・津波が到達するまでに、津波浸水想定区域外へ避難できる → 水平避難を選択
- ・倒壊、流出の恐れがある場所(老朽家屋や平屋など)にいる → 近隣の高い建物へ<u>垂直避難</u>を選択
- ・倒壊、流出の恐れがない建物の2階以上にいる
- → 在宅避難を選択
- ・避難している間に津波に巻き込まれる可能性がある
- → 自宅の2階など<u>在宅避難</u>を選択

※想定外の津波による浸水に備え、<u>可能なかぎり「津波浸水想定区域外」に避難</u>しましょう。

※詳しくは、裏面の避難行動の流れをご確認ください。

## #地域における協力体制づくり(共助・近助)

○平時から地域の防災訓練や行事に参加して、地域や近隣の方とコミュニケーションをとり、いざという時に相互に協力し合える体制をつくっておきましょう。

## 【参考】津波の高さ(浸水深)と被害の目安

『浸水深』:実際に上陸する津波の高さ

イメージ	浸水深の目安	被害の目安	注意報・警報の種類
	5.0 m (2 階軒下まで)	木造家屋のほとんど (2.0~2.5mで約70%)	大津波警報 (3.0m~)
	3.0 m	が流出・全壊	津波警報
	2.0 m (1 階軒下まで)	木造家屋のほぼ半数 (~2.0mで約40%)が流出・全壊	(1.0~3.0m)
	1.0 m	津波に巻き込まれると命を落とす	津波注意報
	0.5 m	(0.3m~)避難できなくなる	(0.2~1.0m)

#### 【 地震(津波発生時)避難行動の流れ 】 作成:滑川市防災危機管理課 ● 自分の身を守る(机の下などへ隠れる) ● 家具類の転倒や落下に注意する 発生直後 ● 火の元から離れる 津波浸水想定区域の中にいる いいえ はい ● 家族の安全を確認 ● 強い揺れを感じた 発生から1~2分 ●ガスの元栓を閉める、ブレーカーを切る ●津波注意報·津波警報、大津波警報 ●ドアを開け、出口を確保 が発表された ● 自宅や周辺の被害状況の確認 避難指示がなくても、 …… 倒壊の恐れがあるか? 必要と感じたらすぐに避難を! ■ 土砂崩れ・がけ崩れ等の恐れがあるか? ① 逃げる時間がないとき →自宅の2階以上へ避難(<u>在宅避難</u>) あり なし →近くの高い建物へ避難(垂直避難) ②逃げる時間があるとき ● 非常用持出品や、 ◆在宅避難 → 近くの高い建物へ避難(<u>垂直避難</u>) 避難の準備 → 山側・線路側に向かって、 ● テレビ、ラジオ、 ● 余震等の状況を 津波浸水想定区域の外へ スマホ等から 注視 徒歩で避難(水平避難) 情報の取得 発生から3分 津波到達 隣近所の状況を確認 ● 隣近所で助け合う(初期消火や救護) ● 高齢者や障がい者などの安否確認 発生から5分 ● 家族の安否確認 一時避難場所(近くの公園やグラウンド)、 テレビ、ラジオ、スマホ等から 指定緊急避難場所、知人宅など、 発生から10分 情報の取得 安全な場所へ避難 ● 海や川には絶対に近づかない 地震や津波がおさまり、危険が無くなったら、帰宅の検討 発生から数時間 (津波警報・大津波警報が解除されたら)

自宅の被害を確認して、避難生活の検討

- 被害がある場合
- 被害はないが、不安な場合
- 指定避難所や知人宅で避難生活を送る
- 被害がなく、安全な場合
- → 自宅で避難生活を送る(在宅避難)